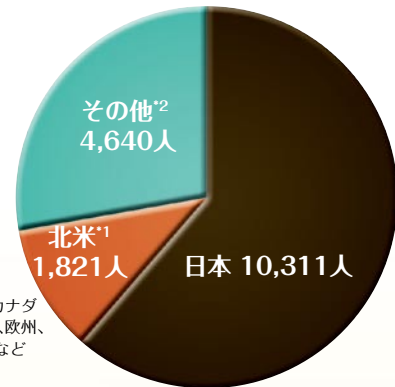


3分の1強が海外拠点従業員、多様性を尊重した職場を目指します

2009年3月末時点の横浜ゴム連結従業員は16,772人で、この内海外拠点の従業員は6,461人、全体の38.5%を占めています。横浜ゴムグループは、性、人種、宗教、風習が様々に異なった人々から構成されており、互いに違いを認め合い、多様性を尊重した職場づくりを目指しています。

横浜ゴム連結従業員数(2009年3月末)



*1: 米国、カナダ
*2: 大洋州、欧州、アジアなど

従業員だけでなく コミュニティーへの情報 発信が大切



タイヤ工場のあるバージニア州セーラムのイベントで
会社紹介役を務めるニール・ダルトン(右)

ヨコハマタイヤコーポレーション(YTC)
Director, EHS(Environmental Health and Safety)
ニール・ダルトン(2007年10月入社)

横浜ゴムは、日本人、外国人が共に働く多様性を重視していると感じます。とくにカリフォルニア州フラトンのYTC本社に行くと、それを強く感じます。しかし会社が多様性を重視していても、そのことを認識している米国人はまだ一部であり、全社的に浸透してはいません。すでにバージニア州セーラム工場ではe-ラーニングを活用して従業員教育を行っていますが、こうした手段をもっと利用して、今以上に教育の場を広げていくことが必要でしょう。今年4月、セーラム工場で「YOKOHAMA千年の杜」の植樹祭を行った後、地域住民で植樹に参加された方、参加されなかった方を問わず、苗木の成長について聞かれ、工場や環境への関心の高さを改めて認識しました。多様性を含めた横浜ゴムの考え方は、コミュニティーに対しても発信すべきであり、そうすることが私に与えられた仕事だと考えています。

地球や他人に優しい行動は 文化を超えて伝わります

横浜密封材料(杭州)有限公司
管理部長
レン・イー・チェン(2004年2月入社)

日本人は中国の儒教思想の薫陶を受けているのか、平和で社会的責任が強く、“自分の好ましくないことは他人にしない”という中国のことわざのように、相手の立場に立ってものを考えるようです。ですから会社は従業員の考え方や中国の風習を尊重してくれています。トラブルが起きても、ルールに則り、穏やかに、寛容に対応してくれます。「YOKOHAMA千年の杜」の植樹活動の一環で、地元のお寺に苗を寄付しに出かけたところ、和尚さまから観音さまの物語を教えてくださいました。地球に優しく、他人に優しい行動は、文化、地域、言語が異なっても伝わると思います。



環境意識啓発の寄せ書きの前に立つ
チェン・シン・イエン(中央)

環境保護は文化・風習への融合と 並ぶ重要ポイントです

横浜胶管配件(杭州)有限公司
行政業務課長
チェン・シン・イエン(2007年4月入社)

日系企業は公平・平等・平和・相互理解と尊重を基本として、安全、環境を第一に考えていることを強く感じます。海外で事業するためには、その国の言語、法律・規制などを勉強し、文化・風習に溶け込む必要がありますが、日本人はそうした努力を重ねていると思います。文化、風習への融合と共に重要なことは環境保護への姿勢です。どんな大きな企業や国家でも、地球の環境バランスを崩してしまえば、全て水の泡で消えてしまいます。私は今年5月に認証を取得したISO14001の認証取得活動を通じて、環境保護の重要性を強く認識しました。横浜ゴムが環境保護を重視していることは心強く、そこで働く自分の誇りになっています。



執務中のレン・イー・チェン(中央)